説教20220515使徒言行録13：44-52ヨハネ13：31-35「互いに愛し合いなさい」

互いに愛し合いなさいという掟、これの意味するところは決して、互恵契約的なそれではありません。すなわち、わたしがあなたを愛するのは、あなたが愛してくれそうだから、といった打算ではないという事です。そしてそれとは全く正反対に、私はあなたをただ愛しているのです。たとえ、あなたが私を嫌っていたとしても、又わたしを裏切ろうとしていても、ただ私はあなたを愛するという事です。という事は、この互いに愛し合いなさいという掟の意味合いは、あなたの隣人を愛しなさい。あなたの敵を愛しなさい、という掟に通じることであることが分かります。更に「わたしがあなた方を愛したように」とイエス様が言われていますから、その愛の中身というのが、多分に自己犠牲的な意味合いを含んでいることが知らされます。

更に、この、互いに愛し合いなさいという掟の中身を明確にするには、次の聖書箇所を合わせて読むとよいでしょう。ヨハネによる福音書１２章24節から、「はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。」

ここでは、自分の命を愛する者が否定的に語られていますが、この自分の命を愛する者を説明するとしたら、それは自分だけを愛する人、或いは複数形にして自分たちだけを愛する人という事でしょう。自分だけ或いは自分たちだけを愛し続ければ、やがてその愛は行き詰ってしまい、その自分は孤独に苦しむようになるでしょう。現代社会で、孤独に苦しむ方々が多いのは、自分だけ、或いは自分の家族だけ、自分の仲間だけを愛し続けてきた結果によるのでしょう。

一方、今日の、互いに愛し合いなさい、という掟は、そういう事ではなくて、とにかく自分ではなくて相手を愛しなさい、という事です。互いに愛し合う愛は、自分の命を愛する愛と、その方向性が違うのです。それは内向きに自分に向かうのではなくて、とにかく外へ外へと向かい、広げられる愛だという事です。愛の方向性、愛のベクトルが、外へと向かっていくのです。

ここまでは、現代における倫理学の先生がお話するような、とても現実的で有意義な講義でありましたが、互いに愛し合いなさいというこの掟を、イエス様が御言葉として私たちに与えて下さっているという事は、そんな講義にはるかに勝る、よさや恵みがあります。

それでは、互いに愛し合いなさいというイエス様の御言葉を味わって参りましょう。

言葉というのは、その中身もさることながら、その語り聞かれるタイミングというのも大変重要です。イエス様は、今日、いわゆる最後の晩餐のときに、ユダが出て行ったあと、この、互いに愛し合いなさいという新しい掟を、１１人の弟子たちにお与えになりました。なぜこのタイミングであったかといいますと、この時の１１人には、この新しい掟が必要であったからです。今日の聖書箇所の前に、１２人の弟子たちの中で裏切る者が一人いて、それがイスカリオテのユダであることをイエス様が明らかにする場面が記されています。この場面は、最後の晩餐というレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画にも描かれていて有名ですが、イエス様とともにある食事の席ですから、基本、この上ない喜びに満たされている雰囲気が醸し出されています。しかし、よく見ますと、その裏には、何かおどろおどろしいことが横たわっていることがすぐにわかります。それは、イエス様が食事の席で、「はっきり言っておく。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ろうとしている。」と断言されたので、弟子たちは、それは誰だ、という事になって、心を騒がせているのです。そして、イエス様は、ユダにパン切れを浸して渡して、このユダこそが裏切ろうとしている弟子であることを、１１人の弟子たちに明示されたのです。ところが、それを見た１１人の弟子たちのリアクションはといいますと、何か、判然としないのです。彼らは、なぜユダにこう言われたのか分からなかった、と聖書には記されています。１１人の弟子たちは、ユダが名指しされて、裏切り者であるとイエス様から言われても、そのことを簡単には受け入れられなかったのです。或いは１１人の弟子たちはその事実を受け入れたくはなかったのでしょう。

さて１２人の弟子たちというのは全てユダヤ人であり、１２という数字はイスラエル１２部族というユダヤ人全体を象徴しています。そういう意味で、１２弟子というのは、血統を同じくした家族であり、誰一人欠けてはならない仲間であったのです。ここまでイエス様について来た１２弟子たちは、ファリサイ派の一味に命を狙われながらの旅路でしたが、そのうちに、彼らは、ユダヤ人の中で自分たちこそが、勝利し救いに入れられるものたちなのだという思いにさせられたのではないでしょうか。ですから、そんな仲間である自分たちの内に、裏切り者が出る、という事は、彼らにとっては受け入れがたく、信じたくないことだったのでした。ですから如何にイエス様のみ言葉とはいえ、弟子たちは、ユダが裏切り者であるという事実を信じられなかった、或いは信じたくなかったのでした。

この様な１１人の弟子たちの態度に、冒頭申し上げました、自分たちだけを愛する人の姿を見出すことは難しいことではありません。この時、弟子たちの愛のベクトルは、自分たちの内へ内へと向かい始めていたのでした。

さて、イエス様は、なんでもご存知です。１１人の弟子たちの心のうちも手に取るようにご存知であります。イエス様は、ユダが出て行くと、残された１１人に「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。」と言って、栄光のことを話されます。この栄光というのは具体的には十字架のことであり、その後の復活のことでありますが、今はイエス様は十字架のことは、ほのめかすだけであります。

この時１１人の弟子たちは裏切り者のことも、これから起こる十字架のことも、はっきりとは呑み込めていないのです。そして「あなた方は私を探すだろう」とイエス様は言われます。そして次のイエス様の御言葉に１１人の弟子たちはドキッとしたのではないでしょうか。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言っておく。

この御言葉でイエス様は弟子たちに、今のような状況だと、あなた方も、わたしを迫害しているファリサイ派の一味と同じように、わたしが行くところについて来ることが出来ないですよ、と申し渡されたのです。

この御言葉を聞いて弟子たちは、なんだか自分たちがイエス様の道を反れつつあるのではないかという事に気付かされ、目を覚まされたことでしょう。

そしてこの時イエス様は弟子たちに、新しい掟である「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」という御言葉を与えられたのでした。

私たちはイスカリオテのユダといいますと、裏切り者の最たるものとして、よろしくない者として思っていますが、不思議なことに、この11人の弟子たちがユダのことをどう思っていたかという事はあまり記されていません。そこには、同じユダヤ人としての身内としての仲間意識というのが多分にあったのでしょう。だから弟子たちは、ユダの裏切り行為に対しても、目を背けて、踏み込まなかったのかもしれません。イエス様はこういった自分たちだけの愛にこもろうとしている弟子たちをみて、「互いに愛し合いなさい」という新しい掟を与えられました。それは将にこの時しかない、というグッドタイミングで弟子たちに与えられました。

さて、この最後の晩餐の時、即ち、過ぎ越しの食事の時に与えられました、もう一つの大変重要な御言葉が、マタイ福音書に記されています。新約聖書53ページになります。マタイ福音書２６章26節から

一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えながら言われた。「取って食べなさい。これはわたしの体である。」

また、杯を取り、感謝の祈りを唱え、彼らに渡して言われた。「皆、この杯から飲みなさい。これは、罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。言っておくが、わたしの父の国であなたがたと共に新たに飲むその日まで、今後ぶどうの実から作ったものを飲むことは決してあるまい。」

これは、言うまでもなく私たちが聖餐を受ける時に語られるイエス様の御言葉であります。イエス様は最後の晩餐で、私たちに聖餐という食事のしきたりと共に、この御言葉を私たちに残されました。それは、私たちを父の国での新たな食事の場へと確実に連れていく為です。

そして、この御言葉と時を同じくして語られたのが「互いに愛し合いなさい」という今日の御言葉であります。イエス様が語られる「互いに愛し合いなさい」という御言葉は、私たちが父の国での新たな食事の場へと連れていかれるための恵みの御言葉なのです。

さてこの「互いに愛し合いなさい」という御言葉に目覚めさせられ、この新たな掟を実行している弟子たちの姿が、今日の使徒言行録には記されています。ここではユダヤ人と異邦人とが実に対照的に描かれています。それは今日の説教に照らせば、ユダヤ人が内向きの自分たちに向かう愛を懐いていたのに対し、異邦人たちは外へと外へと向かう、相手を愛する愛に生き始めたという事につきるでしょう。ユダヤ人は、「ひどくねたみ、口きたなくののしって」などと聖書には記されていますが、ここら辺に、内へ内へと向かっていく愛のもたらす悪い苦しみが現わされています。反対に、48節から読みますと、「異邦人たちはこれを聞いて喜び、主の言葉を賛美した。そして、永遠の命をるように定められている人は皆、信仰に入った。こうして、主の言葉はその地方全体に広まった。」という、外へ外へと向かう愛の大きな喜びが記されています。それからパウロとバルナバはユダヤ人によって迫害を受けましたが、弟子たちは喜びと聖霊に満たされていました。

私たちは、最後の晩餐での１１人の弟子たちのことを思い出してみましょう。彼らは、仲間意識に妨げられて、同族であるユダの、裏切ろうとする心に踏み込もうとはしませんでした。それは、彼らの愛が、そのところで停止してしまったことを示しています。

しかし、私たちの愛が本当に完成するのは、この最後の晩餐の時ではなくて、父の国での新たな食事の場においてなのです。私たちは、その新たな食事の場へと確実に連れられて行かれるために、イエス様が今日与えて下さった「互いに愛し合いなさい」という新たな掟を恵みとして受け取り、その愛を自らの外へ外へと、日々少しづつ広げて参りたいと願います。

祈ります

天の父

あなたは御子を遣わし、私たちが自分を愛するよりも他者を愛しなさいという御言葉を与えて下さいました。どうか私たちが漠然とした不安に取り囲まれ、自分だけを愛することがないように、どうかこの御言葉によって私たちを日々、新たに生かして下さい。

キリストが来られる時に、私たちは新たな食事の場につかされますが、どうかその時まで、私たちがこの御言葉によって守られます様に。

主よ、これまで計り知れない憐みと慈しみの御言葉によって、私たちを祝福し、守って下さったことに感謝しあなたを賛美致します。

どうか、私たちが御言葉を聞かないことによって陥る孤独からお救い下さい。御言葉の良き知らせを知っている私たちが、その生活全てにおいて、あなたの福音を告げ知らせ、孤独な方々を愛し、あなたの憐れみと慈しみに生きる者へと導いて下さい。

Sermon 20220515 Acts 13:44-52 John 13:31-35 "Love One Another"

The law of love one for another is not a reciprocal agreement. It means that I love you not because I think you will love me, but because you love me. Quite the contrary, I love you only because you love me. Even if you hate me, even if you want to betray me, I will love you. So the implication of this law of mutual love is: love your neighbor, love your enemy. Love your neighbor and love your enemies. Furthermore, since Jesus said, "As I have loved you," it is clear that the content of this love includes a strong sense of self-sacrifice.

To further clarify the content of this commandment to love one another, it would be helpful to read the following passages of Scripture together. From John 12:24, "Let me tell you the truth. A grain of wheat remains a grain of wheat unless it falls to the ground and dies. But if it dies, it bears much fruit. He who loves his life will lose it, but he who hates his life in this world will keep it and go on to eternal life."

The one who loves his life is spoken of negatively here, but if one were to describe the one who loves his life, it would be the one who loves only himself or, in the plural form, only themselves. If we continue to love only ourselves or only ourselves, eventually our love will come to an end and we will suffer from loneliness. In today's society, many people suffer from loneliness because they have loved only themselves, their families, and their friends.

On the other hand, today's rule, "Love one another," does not mean that, but rather, "Love the other person, not yourself. Love for one another is different in direction from the love for one's own life. It is a love that is not directed inward toward oneself, but rather outward and expands outward. The direction of love, the vector of love, is outward.

This has been a very realistic and meaningful lecture, like a modern ethics professor would give, but the fact that Jesus has given us this law of love for one another as His Word is far more good and gracious than such a lecture.

Let us savor Jesus' words, "Love one another.

The content of a word is important, but the timing of when it is spoken is also very important. Today, at the so-called Last Supper, after Judas left, Jesus gave the new commandment to love one another to the 11 disciples. The reason for the timing is that this new law was necessary for the eleven at that time. The scripture for today is preceded by a scene in which Jesus reveals that one of the 12 disciples had betrayed Him and that it was Judas Iscariot. This scene is famous because it is depicted in Leonardo da Vinci's painting called The Last Supper, and because it is a meal with Jesus, the atmosphere is basically one of unparalleled joy. However, if you look closely, you will soon realize that something frightening lies behind the scenes. It is as if Jesus had said at the dinner table, "Let me tell you plainly. One of you is about to betray me." The disciples are disturbed because they are wondering who it is, because Jesus has assured them that he is the one who is about to betray them. Then Jesus dipped a piece of bread and handed it to Judas, clearly indicating to the eleven disciples that this Judas was the disciple who was about to betray them. The reaction of the eleven disciples to this, however, was something they could not understand. They did not understand why Judas was told this, the Bible says, and they did not easily accept that Judas had been named and told by Jesus that he was a traitor. Or perhaps the eleven disciples did not want to accept that fact.

Now, the 12 disciples are all Jews, and the number 12 symbolizes the entire Jewish people, the 12 tribes of Israel. In this sense, the 12 disciples are the 12 tribes of Israel. In this sense, the 12 disciples were a family that shared the same bloodline, and no one was left out. The twelve disciples who had followed Jesus on their journey to this point were threatened with death by the Pharisees, but in the process, they must have felt that they were the ones among the Jews who would triumph and be admitted to salvation. They were the ones who would be victorious and saved. Therefore, it was unacceptable and unbelievable to them that there would be a traitor among their fellow Jews. Therefore, no matter how much the words of Jesus, the disciples could not or did not want to believe the fact that Judas was a traitor.

In the attitude of the eleven disciples, it is not difficult to see the image of a person who loves only himself, as I mentioned at the beginning of this article. At this time, their love vector had begun to turn inward.

Now, Jesus knows everything, and He knows the hearts of the eleven disciples as well. When Judas left, Jesus said to the remaining 11, "Now the Son of Man is glorified, and God is glorified by the Son of Man. God has also been glorified by the Son of Man. If God was glorified by the Son of Man, He will be glorified by Himself to the Son of Man. And He will do it immediately." He then speaks of glory. This glory refers specifically to the cross and the subsequent resurrection, but for now Jesus only hints at the cross.

At this point, the eleven disciples are not quite sure about the betrayer or the crucifixion that is about to take place. Then Jesus says, "You will look for me. And the next words of Jesus must have thrilled the 11 disciples. As I said to the Jews, 'Where I go, you cannot come;' I say to you now the same thing.

With these words, Jesus told the disciples that in their present situation, you, like the Pharisees who were persecuting Him, would not be able to follow where I was going.

Hearing these words, the disciples must have been awakened to realize that they were somehow diverting from Jesus' path.

At this time, Jesus told them a new law, "Love one another, just as I have loved you. Love one another as I have loved you. We are to love the Iscariotans as Jesus loved the Jews.

We think of Judas Iscariot as a traitor and a bad person, but strangely enough, we do not read much about what these 11 disciples thought of Judas. It is likely that there was a sense of camaraderie among the disciples as fellow Jews. That may be why the disciples turned a blind eye to Judas' treachery and did not step in. Seeing the disciples trying to keep their love to themselves, Jesus gave them a new law, "Love one another. It was given to the disciples at the perfect time, which was only possible at this time in the future.

Another very important word given at the Last Supper, or Passover meal, is recorded in the Gospel of Matthew. It is on page 53 of the New Testament. From Matthew 26:26

While they were eating, Jesus took bread, said a prayer of praise, broke it, and gave it to his disciples, saying, "Take, eat. Take and eat. This is my body."

He also took a cup, recited a prayer of thanksgiving, gave it to them, and said, "Drink from this cup, all of you. Drink from this cup, all of you. This is My blood, the blood of the covenant, which is shed for many for the forgiveness of sins. I tell you, from now on you will never drink anything made from grapes until that day when I drink it anew with you in my Father's kingdom."

Needless to say, these are the words of Jesus spoken to us when we partake of Holy Communion. At the Last Supper, Jesus left us these words, along with the dietary ritual of the sacrament. He left us these words at the Last Supper, along with the ritual of the sacramental meal, to ensure that we would be taken to a new meal in the Father's Kingdom.

And at the same time, Jesus spoke today's words, "Love one another. Jesus' words, "Love one another," are words of grace to bring us to a new meal in the Father's Kingdom.

Now, awakened by this Word, "Love one another," we see in today's Acts of the Apostles the disciples carrying out this new law. Here we see Jews and Gentiles in stark contrast. In light of today's sermon, it is clear that the Jews had an inward, self-directed love, while the Gentiles began to live an outward, outward love for the other. The Jews are described in the Bible as being "terribly envious and spiteful," and here we see the evil suffering that inward love can bring. On the contrary, verse 48 reads, "When the Gentiles heard this, they rejoiced and praised the word of the Lord. And all who were destined for eternal life came to faith. Thus the word of the Lord spread throughout the region." This describes the great joy of outward love. Then Paul and Barnabas were persecuted by the Jews, but the disciples were filled with joy and the Holy Spirit.

Let us remember the eleven disciples at the Last Supper. Hindered by camaraderie, they did not want to step into the betraying heart of their fellow Jew. It shows that their love stopped right there.

But it is not at this Last Supper that our love is truly perfected, but at the new meal in the Father's kingdom. In order to be sure that we will be taken to that new meal, I hope that we will receive as a blessing the new law that Jesus gave us today, "Love one another," and spread that love outwardly, a little by little, day by day.

Prayer.

Heavenly Father

You sent your Son to give us the Word that we should love others more than ourselves. Please keep us alive anew day by day with this Word, so that we are not surrounded by vague anxieties and love only ourselves.

When Christ comes, we will be given a new place to eat, and until that time, may we be protected by this Word.

We thank you and praise you, Lord, for blessing and protecting us with your Word of immeasurable mercy and compassion.

Please save us from the loneliness that comes from not hearing your Word. As we who know the good news of Your Word, proclaim Your gospel in all our lives, and lead us to love those who are lonely and to live in Your mercy and compassion.

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)